再生の題字（森廸彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

零下廿度の空き屋に寝ねて凍餓死を

しずかに待ちしかの日をおもふ　（奉天郊外）

森信三先生あいうえお語録より

第0046号

2020.6月号

令和弐年

実践人福岡仁風読書会

現代における孝の哲理

― マナコを閉じて親の祈り心を ―

森　信三先生　講述

実践人福岡仁風読書会　第42回　5月2日(土)

場所:福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号　仁風庵にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。

(参加費無料)　詳細は、世話人へお問い合わせください。

八　孝はわがいのちの根源を求める

人間至深の情である

「生」の凝視

これまで七章にわたって、根本的には「親」の真理について考察をつづけて来たわけでありまして、いわば生命論的立場とでも申しましょうか。最初にまず哲学すなわち全一学的立場から考え、つづいて人間関係的立場からいのちの最も身近かなつながりとして、親についての考察を進めて来たのであります。今もう一度その概略を申してもみますと、わたくしたち人間の「生」をふりかえり、それを凝視いたしますと、先ずそのそもの最初から出生の秘密に思い到らざるを得ないのであります。すなわちわたくしたちの「生」は、自ら親を選んでこの世に生れ出たものは、この地上には唯の一人としていないという事実に、先ず注目せざるを得ないわけです。

ところが、この点では親自身もまた同様でありまして、すなわち親自身も自分の親を選んでこの世に出生した者ではないのであります。すなわち子も親も、そのまた親もだれ一人として、自分の意志によってこの世に生れたものは無いわけであります。否、それのみならず、いずれも親の血を享けているわけでありまして、先祖の血を親がうけ、その親の血をその子の私どもがうけているわけであります。かくして親自身もまた、その親からの血の継承者であるというわけです。そしてここに血とは、遺伝的素質を指すのでありまして、いわば先天的運命の主たる要素であります。そしてこの先天的素質を生かして、この世において自らの使命を実現するところに、われわれ人間の生の意義があるわけであります。かく考えますと、お互いに親の血を受けつぎそれをまたわが子に伝えるところに、われわれ人間の「生」の意義があるといえましょう。

かくしてわたくしどもは、このようにタテの系列をさかのぼって行けば、実に無量なる先祖の血をうけているわけでありまして、二十五代さかのぼっただけで、われわれの先祖の数は、実に三三五五〇〇〇〇四四三二人になるといわれます。つまりわれわれは、このような尨大極りない数の先祖の血をうけているわけであり、随って親はそうした無量の先祖の最先端に立つ代表者だとも申せましょう。それゆえ又親を尊ぶということは、同時にそれら無量の先祖を尊ぶということであり、もし又親を見下げるとしたら、それはそれら無量の先祖のいのちを軽視することになるわけです。

その上に「親」ほど子の成長・幸福・繁栄を祈り願わぬ者はなく、そうした親の祈り心の察しがつかぬようでは、たとえ年令はいかほどいっていても、全く幼稚園児の域を脱しないことでありまして、それは親の所業の如何を問わないという意味がその根本にあるわけであります。それゆえまた親を軽視するということは、結局自己の運命を呪う所業でもあって、これほど大きなバチ当りはないと言わねばなりますまい。ですからわが親はその優劣・智愚・善悪の如何を問わず、子にとって「絶対的存在」であって、本来比較したり計量することの許されぬものなのであります。随って「親すぐれたるがゆえに敬するに非ず、親たる事実の故に敬す」という一語にたどりつくのであります。何となれば親は生命の根本だからであります。

ぐりいし先生　三十年後に望みをかけた教育

連載３９回　　第三部　忘れせぬかも　　岡部　重　著作

序

意欲的であることは、この和やかな雰囲気の中で、子どもたちが、最高の安定感に浸っていればこそ、自己の可能性が最大に発揮されるものであるから、すべての面に、子どもの活動が意欲的になって行くのが自然の数であると思います。又、翻って、人間の人間たる尊さは、単に自己のみの幸福感に酔いしれることではなくて、むしろ積極的に、社会に貢献するシゴトを択び、実践し、向上させていくことにかかっては居まいか。もしそうであれば、それはむしろ強制されたものではなくて、それが安定感の上にたつ限り、深い愛情の発露であるわけで、随って自らの心の中から沸々と湧きたってくる自主自発的のものでなければならない。言い換えれば、意欲的だということであります。

しかも、子どもの意欲の対象が何に向けられたらよいか、総括的には学校生活全体でなければならないのが、集約的には、学校生活の中核である『学習』にむけなければなるまいと考え、研究主題を、『学習意欲を高める環境はどうすればよいか。』にしたわけであるが、それは、しかも学習指導のみの環境に限ることなく、その発展である図書館、その基盤である健康指導、又その所産である文化的環境にも向けられて、総合的な調和的な雰囲気と環境を構成すべき使命があると思います。この研究を続けて行く中で、健康教育が着々と成果を上げていることを見ても、意欲的な子ども創りの一環として当然なこととうなずけようし、図書館教育がその成果を約束づけられていることも、その一つの現れであると考えられようと思います。更に学習の効果のあがることを直接的な目的として持ちながら、すべての子どもが、人類や国家に対して有用な仕事に向って意欲的な人間にまで育つことこそ、私どもの終局の目的であります。

『なごやかで意欲的な学校』づくりは、子どもたちを、深い愛情をたたえて、民族・国家・人類の運命を開拓して行く明日の担い手としての、烈々たる意欲の持主にまで育てあげるためのものであり、その仕事のてがかりとして、『学習意欲を高める環境はどうあるべきか』のテーマに取りくんだわけであります。

このことを別の面から見れば、本校がさきに掲げた、自主、協力、創造とは、全く表裏の関係にあって、愛と意欲とは、自主より生れ、協力に及び、創造に働くことによって一致すると思います。

健康教育

前任の前田校長時代三ヶ年は体育を中心に努力してあって、多大の成果をあげておられ、先生方もそれぞれ一見識をもち、子どもたちは、休み時間放課後など鉄棒にぶらさがっているくらいで、日常生活に滲透していた。

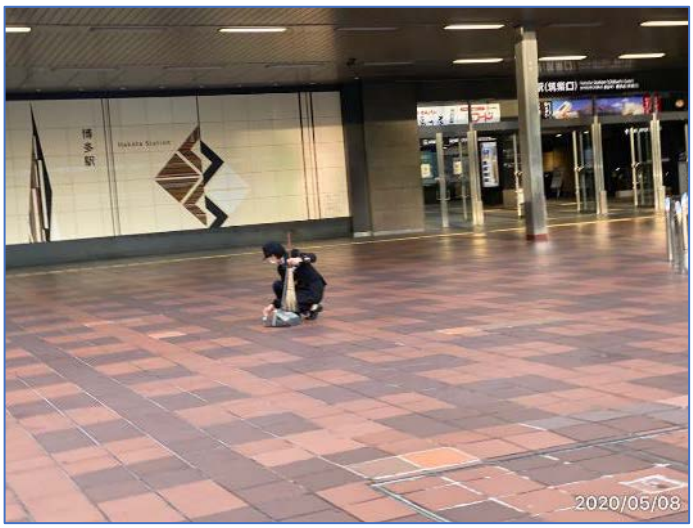
たまたま、県の健康優良学校を郡から推薦することになった時、私は前任校長の功績を讃えるために、推薦に応じて書類を提出したところ、入選校十七校のうちで優良賞を受賞することができた。

……次号に続く

第318回　博多駅早朝清掃

5月8日（金曜日）　　13名参加

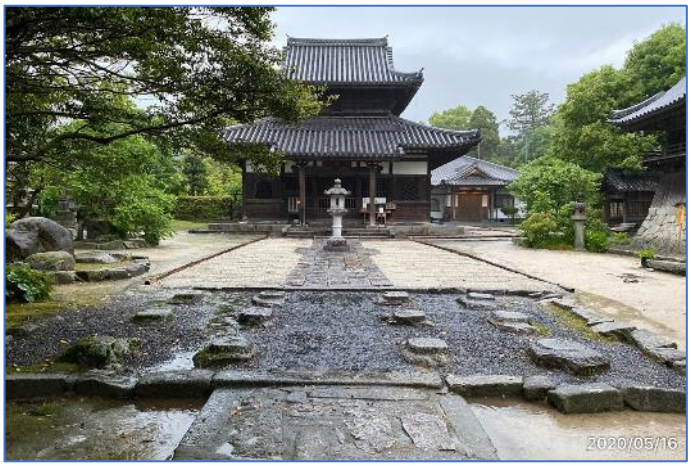
第３１８回目の博多駅早朝清掃は、博多駅長を始め13名での活動となりました。非常事態宣言下での活動で、通常のラジオ体操と掃除の歌の合唱は省きました。駅周辺は人の出入りも無いせいで、ゴミも疎らでした。
この日、博多駅駅長のテリトリーであるガム剥ぎを一緒にさせていただきました。ガムの多さに唖然の二人でした。
参加者内訳　　一般：１２名、大学生１名の合計１３名での活動でした。



新型コロナウイルスで博多駅の様子も一変してしまいました。タクシーに乗降りするお客さんも無く、タクシーの台数も疎らです。 こんな状況だから出来たこと、タクシーの運転手さんとの立ち話。「毎月ご苦労さん！」「この間空港の方でこの軽トラ見かけたけど？」なんて、他愛ない会話の中で、清爽活動を目に停めている市民がいることに感動いたしました。「空港周辺も月に一度ですけどやってます」と返答し、暫く会話を楽しむことができました。『やっておいてよかった』コロナに押されて中断していたらなかった出逢いと会話でした。お掃除道に心より感謝致しました。 冨吉袈裟右衛門　拝

令和を巡る早朝清掃／戒壇院　2020.1.25~

5月16日（土曜日）



帆足行敏先生《N社内講和録》 その参

平成 不明年　九月 六日

月の初めは、私は大体三十分程度の話を申し上げるという事にしてありますから、先週県の職員の研修所の方に行きましたので、ちょっと朔日の日が飛びましたので、ちょっと月の初めと言っても、ちょっともうずれたような感じがしますけれども、ちょっと話を申し上げたいと思います。

特に今月は新人の方もお見えですから、大体我が社は月の初めに私が大体三十分以内で喋るという事にしております。後は毎朝ですね、それぞれ回り持ちで三分間スピーチという事をやってるわけです。それで、我が社の空気も多少分かってきたと思いますけれども、今朝も初めてお会いしまして、朝掃除をしておられたのですね。何故掃除をするかという事なんですけれども、このあたりをひとつしっかり頭に置いて頂きたい。掃除は何故するかという事。

私は先週研修会が終わってから、土曜日に那珂中学校と那珂小学校に行って、今年十一月に福岡掃除に学ぶ会の会場をその二つの学校にお願いをして、或いは学校としてもですね、学校を挙げてトイレ掃除に取り組むというところまで話をつけてきました。何故こんな掃除をするのかということですね。我が社においても、朝何故こういう掃除をするのかと。まあ、きれいにするということは当たり前のことなんですが、これはですね、掃除というものをずーっと追求していきますと、これは我儘を取るという事になるんですね。我儘を取るという事は、自分をきれいにするという事なんです。人間はもう、ほんの瞬間瞬間で、誰も気持ちがころころころころ変わっていく。ある人からぱっと褒められたら、ぱっと嬉しくなる。ある人からまたぱっと批判されると、ぱっとかっと来たりですね、落ち込んでいったりする。我々の気持ちもころころころころ変わっていくわけですね。それで、自然として我々の気持ちは常に我儘へ我儘へと走る傾向があるわけです。この我儘っていうのが、我々の人間関係をね、浅くしていくんです。まあ、分かり易く言うならば、棘のある人は割と人と付き合いにくいですね。まあ、その棘というのがですね、我儘と思っていいと思います。自我と思っていい。それをね、少しでも少しでも削っていく。取っていく。これは非常に大事なことで、その一番最短距離が、私は掃除だと。もう長い間やっておりまして、これが一番近道だという風に思っております。ですから、いろいろな修行団あたりが、いろんな行事を組む場合でも必ず掃除から入るんですね。これは今言ったような趣旨があるからですね、掃除に取り組むわけです。私たちは、もう一歩、それからもう一つ進んで、トイレを磨く。これが掃除の中でも一番我儘を取るのにいい。こういう風に思っております。まあ、我が社の場合は、そんなに毎朝ですね、みんなで取り掛かるようなトイレがありませんので、まあ何人かで順番にでもトイレ掃除をするようにですね、心掛けてほしい。それは今言ったような事で、言葉を換えると、自らの修養、修行と言いますか、これになるわけです。だからね、掃除をしない人はね、我儘です、これはね。汚すという事は全部我儘ですね。掃除はその我儘を取るっていうわけですから。これは人間修行という事になると思う。それでまあ、我が社はですね、そういう意味において、掃除に、朝掃除を心掛けておると。これも十分とは言えませんけれどもね。まあ少しでも、そういう事になればという風に思っておると。

で、私今度の八月の実践人の夏の研修会に行きましたらね、これに非常に関係するような話がありまして、一部は皆さんにお話をしました。南正雄という中小企業の社長がですね、バーベキュー大会に社員、社員だけじゃなくて社員以外のグループと一緒にバーベキュー大会に行って、バーベキューの大会が終わって、後片づけて帰ろうとしたら、一緒に行った仲間がゴミを散らしてですね、みんな集めようとしない。時間が足りなかったので、そのま仲間がゴミを散らしてですね、みんな集めようとしない。時間が足りなかったので、そのまま家に帰ったという話は、もう既にしましたですね。そして彼らのそれから以降の人生をずっと見たところが、みんなそういう風にゴミを捨てたりした方々の人生はみんな良くないという話を致しました。その事はもう今日は触れないとして、なんかそれにちょっと関連するような事をですね、あるわけです。それはもう皆さんもご存知の、大阪に吉本興業というのが、まあ知っておると思います。漫才だとか喜劇だとか、ああいうのをやっている吉本興行のことをご存

知だと思いますが、この吉本興業のですね、いろいろ調べたもの、人間の生き様というものを発表された方がおられたんですね。どういう内容であるかというとね、吉本興業は今従業員が五百名おるんだそうです。従業員が五百名。そしてここはもう完全に能力主義って言うんですか、もう完全に能力主義。ただ最低線は、生活保障とかそんなこともないんですよ。完全に能力主義。ですから、個々の五百人の所得を調べたところが、五百人の中で一億円以上の所得のある人が十名だそうです。一億円以上の所得のある人が十名。それから、その中でもずば抜けて十億以上の人が二人おるんです。それから先はね、ぐーっと、所得がぐーっと落ちて、だんだんだんだん、こう行くんだそうですが、大体普通の人で、大体百万から二百万だそうです。所得がですね。一番最低の所得が、年収五十万だそうですよ。どうして食っていきますかね。そういう連中はですね、年収五十万ですから、月に十万もならんわけですよ。しかし生活はしなきゃいけない。もう地の底を這うようなね、いろんな仕事を探して回る。まあ、中にはレストランの皿洗いとかね、そういうアルバイトとか、或いは新聞配達とかね、もうとにかく今我々が常識として考えられないような、そういう仕事を探す。とにかく食う、生活するという事に一所懸命になっているんだそうです。で、上の方はですね、もう皆さんご存知のように、タレントになりますと、あっちから引っ張られこっちから引っ張られ、テレビの放送はあるわという事でちやほやされて、非常に所得水準が高い。そこで、この吉本興業の中が一番そういう意味では人間勉強するのに非常に何かはっきりしたものがあるという事で、徹底的に調べたそうですわ。伸びる人と、それから伸びない人と、途中で失敗する人と、大体そういうようなタイプがね、おおよそ出てくるというわけですよ。だんだん下っ端の人は、やっぱりそういう生活をしながら、一所懸命芸の勉強をしたりしてくると、だんだんだんだんそれなりに引っ張り出されて、所得が増えていくわけですね。そうすると、大体人間の生活のあり方って言うのが、だんだん変わっていくんです。その変わり方がね、大体はっきり、その人の性格あたりを表してくる。ひとつの限界があるという事で、これは日本人としてですね、そういう差が出てくるのが、大体所得で言えば一千万から一千二百万くらいの所得だそうです。吉本興業の例を見るとね。そのくらいから大体上にずーっと伸びる人と、それからだんだんだんだん転落していく人と分かれてくるんだそうです。それが大体それくらいの水準で吉本はそうなっていく。

先ず、どうなっていくかと、所得水準が変わるとね、今までの生活のマナーが変わってくると言うんです。殆ど徒歩で来よったのがバスで来る。一番所得水準の低いのはですね、バスにも乗れない。だから歩いてくる。少し水準が上がると、今度はバスで来る。それでこれが所得が増えてくるとね、バスからね、タクシーで来るんだそうですよ。それが少し水準が上がったところでね。タクシーで来るんだそうです。それから自家用車、中古車を買って、今度は車で通勤をする。ところが所得が上がるとね、中古車を新車に変えていく。そして、この所得が更に上がると、この新車もね外車の方に切り替えていく。だんだんだんだん、こう、住んでいる家もね、間借りから、一軒の家を借りていくとか。それから家を購入するとか。こういう風にだんだんだんだん変わっていく。ここら辺りまではね、大体大きな流れはそうなっていくんだそうです。それでじっと見ておりますとね、この一千万円ぐらいの所得になると、ここから人間の差がぐーっと開いてくるんだそうです。まあ、我々が一千万と言ったらね、ちょっと夢のような話ですけども。まあ芸の世界はそうなんでしょうけど。どういう風に分かれてくるかと言うと、非常に成功する、失敗をしていく、それから先伸びない人ですね、どういう状態になっていくかというとね、ある一定の水準まで行くと、だんだん人間が傲慢になるんだそうです。だんだん人間が傲慢になっていく。もうそういう自分の部下なんかにね、「おい、何か買うてこい」「あれしろ、これしろ」なんてね、非常に態度が大きくなるっていうかな、傲慢になる。そういうものが現われてくるんだそうです。

そして、大体その人が持ってる、例えば漫才なら漫才というのは本業でしょ。ところが本業を離れて、専業から離れて、別なものに手を出していくという、そういう傾向が出てくるんです。これは何か、バブルが弾けた時の状況に何かよく似たところがありゃせんですか。

ある一定の水準までは本業でがーっと行きながら、そう上がってくると専業を離れていく。専業を離れていく。岩田屋デパートなんかが、あんな風になってますのは、僕はあの真相は知ってますが、専業から離れたのがああいう風になっていってるんです。やっぱり少し調子がいいとね、本業から、いわゆるこれをしなきゃならんと、これを追求しなきゃならんというのを、ちょっと脇見して、こういう傾向が出てくるんだそうです。これは、みんな元を辿っていけば、傲慢だっていう事。また後で、傲慢にちょっと触れますけど、そういう傾向が出てくる。

それから、ぐーっと伸びる連中ですね。伸びる連中はね、そういうものにあんまり関わらんそうです。それで、自分の所得が上がると、今まで年収五十万とか百万とかそういう連中はね、俺と今度は飲みに行こうってな事でね、とにかく飲め飲めってね、後は俺が払うって、これ一例よ。そういう風にしてね、自分の所得を自分の物にしなくてね、みんな外に使ってしまう。これがね、非常に上に上がっていく人の、芸の世界のスタイルだそうです。いわゆる自分のものにしないって言うか、俺がこうなったのはみんなのおかげだという、そういうような気持がいつも何処かにある。そして、このひとつの自分の舞台があって、その舞台が終わるとね、そういう方はどういう風にするかと言うとね、今まで幕を開け閉めしとった人にね、お礼に廻るんだそうです。裏で太鼓叩いておった人、それから、いわゆる底辺、こういう事言うと悪いかもしれんが、底辺で働いてる人。底辺で働いておる人みんなに挨拶をして廻るんだそうです。時にはね、ちょっとした物を持って、「ありがとうございました」と。非常に謙虚だそうです。そして、自分がこうなっておるのはね、みんな貴方たちの支えがあるから私は頑張っているという意識が常にある。という事は、常に傲慢さを打ち消していってるわけですね。自分の傲慢さを打ち消していってる。そうすると、そういう風なこの事になっていくわけです。そして、然ももうちょっといい芸にするにはどうしたらいいかと、いわゆる専業の事だけに向いていくわけですね。専業を離れるという事はない。こういう方がね、大体一流の人になっていっているようだと、こういう事なんです。

それで、傲慢さの話がちょっと出ましたですけども、傲慢さというのは、これは全てが悪いものと結びついていく。全てが悪いものと結びついていく。例えば、バブルの事業失敗なんかで、やっぱりある一定の水準まで行ったら、何か奢りが出てくるんです。そうすると、その奢りがね、すぐ何らかの誘惑に結びついていくわけね。まあ、例えばの話だけれども、「おい今度は土地の売買でええ儲けがあるぞ。お前、これやらんか」ってな事でね、本当はそういう事をやるべきものじゃなかったのがね、そういうものにね、一回やればぱっと儲かったってな事で、そういう傲慢が全てそういうものと結びついていく。これは一つの例。これは日常生活においても、いろんな事に結びついていきますよ。例えば、友達同士でも、「あいつ少し態度が大きくなったなあ」。もうこれは評判が良くないですね。普通そういう態度が大きい者は、大きい者同士で結びついていく。そういう事で、この傲慢さは非常に警戒を要する。この傲慢さを少しでもね、やっぱり我々は日常生活において取らなきゃならんですね。先ほど言ったように、人間の、この我々の感情とか意識とかは、ごろごろごろごろ流動的ですから、それをいつも研ぎ澄まさないように、研ぎ澄まさないようにね、やっていかなきゃいかんのじゃないかと、こう思いますね。

これを、今度の実践人の研修会でね、そういう体験発表した人がおりましたけどね。皆さんにお伝えをしておこうと。私自身もね、こういう事を話をしてるけどね、やっぱり常にちょっと出るんですよ。ちょっと出る。例えば、今まで私たちが指導してきた教え子とかにね、「おい」ってな事でね、何か態度が大きくなってくる。すぐする。これはもう人間のね、本能だろうと思います。そういうものをね、常にやっぱり自分で落としていかなきゃならない。これが一番最初に言ったように、掃除活動の本質なんですね。だから、ちょっとでも汚れた所があればね、「ああ、これは会社の中に随分傲慢さがあるな」と、私は思うんですよ。

だから、傲慢さを取っていかなきゃいけない。これが一番人間生活の、仕事を進める、一番基本になる、こういう風に思いますけれどもね。今日は新人の方もお見えですから、そういう話をひとつしておきたいと思います。

それから最後にね、もう一つ、講師の方からこういう事を聞きました。「もうちょっと知恵を出しなさい。もっと知恵を働かせる。今の若い人はね、どちらかと言うと、苦労が足りないですよ。苦労が足りない。苦労が足りないというのは、みんなどちらかと言うと、指示され型ですよ。これをやりなさい、あれをやりなさい、こうしたらどうですか、ああしたらどうですか。いわゆる受け身ですね。受け身型が多いです。受け身型ではね、人間の知恵は出てこない。だから、皆さん、これを切り替えて、もっと知恵を出しなさい。この知恵が出るためにはどうしたらええか」と、こういう話がありました。これは、例えばね、個々にあそこで実験したのに、こういう器にですね、水をこう入れてね、「これから先は石油とかガソリンはね、永久にあるものではない、大体枯渇して無くなっていく、じゃあ、それに代わるべきものは何か」という事で、水だって言うんですね。これから先の車は水で走ります。

どうですか。その一つの証拠にね、ここに小さな器に水を入れて、そしてちょっとした物を混ぜまして、フタをして、それに電線て言いますかね、針金を通して、そして上に小さな電球をつけて、それをこう通したら電球が点くんです。これは、これだけの水で二十四時間、このランプは点きます。電気は点きます。そして、もうひとつね、電球は誤魔化しだと思われるから、玩具のモーターを持ってきてね、前にプロペラを付けたら、プロペラが回り出した。これは二十四時間持ちます。これは一つの製品です。こういう事が出来たのは、製品です。ところが、これを販売するとなると、このままじゃ売れないですよね。これを商品に、どうしたら皆さんに売ることが出来るか。商品に転化する。これが知恵ですと。分かり易く、そういう説明をなさったんです。これは我々の勉強と非常に良く似てる。いろいろなものを覚える。覚える。じゃあ、これは製品を作る。同じことだ。しかし、今度はそれを役に立てる。商品として役に立てて、人の為に役に立てる。という事は、個々に知恵がないといかんですね。こういう我々の知恵をね、うんと働かせんといかん。だから今の皆さんの年齢は、どちらかと言うと受け身型だから、そういう中では中々知恵が出にくい。そういうのを、いつも意識しとる。この知恵を出すには、どうしたらええかという事。汗を流しなさい。汗を流しなさい。苦労しなさい、という事が結論だったですね。苦労しなさい、というような事でした。自分にもっとそういう意味の投資をしなさい。もっと自分にそう言う意味の投資をしなさい。上甲昭さんがですね、青年塾というのを作って、一番最初にですね、塾を開いてバングラデシュに希望者だけ連れて行ったそうです。そしたらですね、バングラデシュの空港に着いた。そしたら、空港の周りをずーっとガラスで通路が出来とるんです。その通路のガラスに、あそこの子供たちがですね、子供やら大人が、みんなこうしてガラスに両サイドからくっついとる。日本から来た七人の若者がですね、足が動かなくなった、怖くなってしまって。もう、顔、顔、顔、顔。ワーッと。それはお客さんが来たから、何か食べ物がないかという事で求めている。これ程、その現場に行って、困っている実態をね、若者に見せ経験させるという事で、今自分たちが如何に豊かであるかという事を分からせる分ってもらう、そういう事でバングラデシュに連れて行ったそうです。もう歩けないんだそうですよ、怖くて。ダーッと並んでいるからね。何でもポンと何か捨てると、すぐそれにバーッと寄って集まってね。例えば食べ物でもすると、自分で食べるかと言ったらそうじゃない。今度はそれを買う市場があるんだそうです。例えば極端に言ったら、弁当の食いかけをポンと置けばね、その食いかけをパッと捕って、市場に行くんだそうです。そしてその食いかけを買ってくれる所があるんだそうです。だからそういう市場に行くと、まあ例えばの話だけども、鶏なんかも人の食いかけの歯の跡が残った奴が商品として売られている。こりゃ、高級品だそうですよ、貧しいから。そんな惨めなね、経済的に困窮な生活をしている、そういうのから比べてみたら、もう我々は如何に豊かな生活をしているか、如何に贅沢な生活をしているか、そういうのに比べたら、もっと汗をかきなさい、もっと汗をかけ、汗をかく事で知恵が出る、知恵が出る、という事を最後にまとめとして話が出ました。これは私が聞いた話を皆さんにお伝えする。これは自分の生き方の中で大変大事な事じゃないかと思いますから、ひとつ参考にしてもらいたいと思います。今日は新人の方もおられましたからね、掃除の話から入りましたが、そういう事で、じゃあ終わりましょう。どうも失礼しました。

生命の林と人生　四四、　ガウディの螺旋

020-5

光然京カルデラ

樹木あるいは植物という観点に立って、改めて建築を眺めてみると、そのイメージを持つ建物は実に少ないことがわかる。

洞穴や動物という二つのテーマに比べても、植物と建築との類縁性が薄いとは思えない。それどころか、樹木は自然界にあって唯一、時間の経過にしたがって空間を構築してゆくことのできる生命ですらある。それにもかかわらず、人はそれまで、材料としての木材は大いに活用してきているのに、生命ある樹木そのものをイメージしようとはしなかった。そのただ一人の例外がガウディであったと言っても、過言ではない。そして、おそらくそのガウディに大きな影響を及ぼした、と目される詩人がいる。文豪ゲーテである。

ガウディとゲーテとの関係は、これまでにとりたてて論じられたことのない問題で、私の単なる推測に過ぎないかもしれない。けれども、ゲーテが自然科学論の一つとして執筆した「植物変態論」に見出せる植物の描かれ方が、あまりにもガウディの造形が近いことに、驚かされよう。しかもガウディは、ルドルフ、シュタイナーが偏纂したゲーテ全集を、愛蔵していたといわれる。

ゲーテの「植物変態論」のうちでも特に興味をそそられるのは、「植物の螺旋的傾向」と題される小説である。一八三八年に出版され、数多くの植物観察から得た知識とともにして、ゲーテが植物に関する総括的な認識を書いたものである。

ゲーテによれば、植物体は垂直高昇的と螺旋的の二つの有機構造を併せ持ち、両者が平衡を保ち統合させるとき、植物はメタモルフォーゼ、つまり変態という成長を遂げることができるという。垂直的構造とは、草の繊維や樹木の木質部のことであり、植物を起立させる構造である。この構造は植物と持続して支えるものであるとして、ゲーテは、生命の垂直的な努力ともそれを形容している。

一方の螺旋的構造は、増殖をつかさどる部位であり、変化し消滅するものであると規定された。そして、植物の生命は本来、この螺旋的傾向によって活気づけられるとも指摘した。ゲーテは、見出したこの二つの構造を、結局は人間へのアナロジーとしてまとめあげ、前者と強力で身体を支えることのできる男性的な力、後者を養い結実させる女性的な力、と結論づけることになる。そして両者を弁証法的に統合し、ゲーテは植物体を「雄雌両性を一身に具有してひそやかに結びついた」生命であると定義したのであった。

今日、このゲーテの植物論を科学であると認める研究者はいないだろう。また私たちでさえ、詩や倫理観の混在するその論旨が、誤ったものなのであることに気づく。

しかし、何らかの創造行為は、正誤の尺度から論じられるべきものではない。バシュラールもゲーテと同じく、労働という植物的生命の本質を、多くの詩人によって語られたイメージのなかから見出しているではないか。垂直と螺旋の、二つの有機体構造のダイナミックな統合が、植物的生命に一つの形を与えるとするゲーテの考察は、ガウディを強く刺激したに違いない。ガウディもまた、ゲーテのように自然と注意深く見守った一人である。

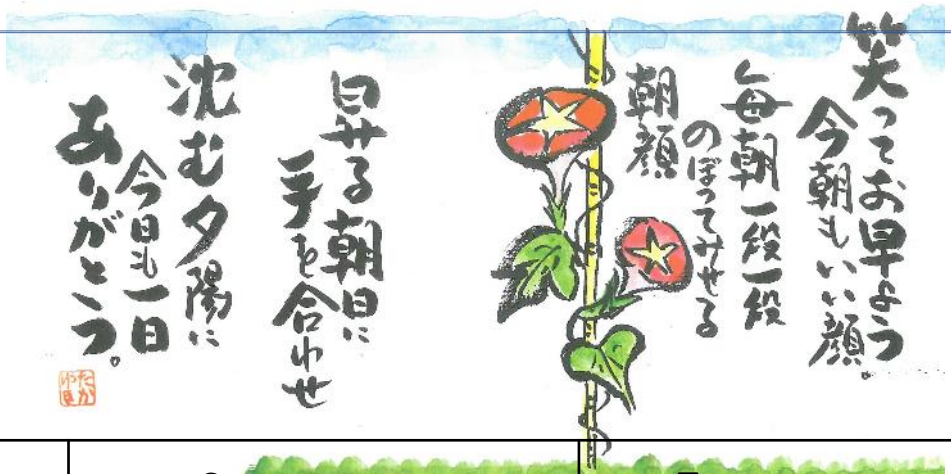
ガウディ　一八五二―一九二六年
ゲーテ　一七四九―一八三二年

不思議な建築より一九八六年発行
下村純一
発行所　講談社

二〇二〇年五月二六日
広葉の林を育てる会
興膳　丈治

再生六月号

令和弐年六月八日発行（毎月一回八日発行）創刊 平成二十八年九月一日 発行人 冨 袈裟右衛門



6 月の活動予定表

日	曜	行事活動名	場所	開始時刻	運営団体
6	土	福岡空港ミリオン清掃　第25回	ボッチ清掃	6時30分	福岡清爽クラブ
6	土	筑前町高齢農家支援	筑前町	午前中	NPO法人楽農人
7	日	櫛田神社トイレ磨き	ボッチ清掃	6時	福岡清爽クラブ
7	日	冷泉公園トイレ磨き&ゴミ拾い 第124回	ボッチ清掃	6時40分	福岡清爽クラブ
8	月	博多駅早朝清掃　第319回	博多駅筑紫口	6時00分	福岡清爽クラブ
20	土	新飯塚駅早朝清掃	福岡県飯塚市新飯塚駅	6時30分	いいづか清爽クラブ
21～30		鹿児島楽農	鹿児島県大楠農産	終日	NPO法人楽農人
27	土	令和を巡る早朝清掃	福岡県太宰府市　戒壇院	6時30分	福岡清爽クラブ

7 月の活動予定表

日	曜	行事活動名	場所	開始時刻	運営団体
4	土	福岡空港ミリオン清掃　第26回	福岡空港　周辺一万m	6時30分	福岡清爽クラブ
5	日	櫛田神社トイレ磨き	櫛田神社	6時	福岡清爽クラブ
5	日	冷泉公園トイレ磨き&ゴミ拾い 第125回	冷泉公園	6時40分	福岡清爽クラブ
8	水	博多駅早朝清掃　第320回	博多駅筑紫口	6時00分	福岡清爽クラブ
12～30		鹿児島楽農	鹿児島県大楠農産	終日	NPO法人楽農人
18	土	新飯塚駅早朝清掃	福岡県飯塚市新飯塚駅	6時30分	いいづか清爽クラブ
25	土	令和を巡る早朝清掃	福岡県太宰府市　戒壇院	6時30分	福岡清爽クラブ

発行人（編集人）冨吉　袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人　清爽クラブ
◇一般社団法人 実践人の家　福岡仁風読書会
◇NPO法人 楽農人

〈合同事務局〉　〒811-2247
福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号　≪仁風庵≫
TEL 092-931-8155（掃除）　931-8150（読書）FAX 092-931-8120
E－mail　fukusoukai@souji.link（掃除）agri@kesajin.link（農業）

「再生」に掲載している写真は、冨吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。